

令和元年 10 月 1 1 日発行  
全国保健所長会

台風 15 号の被害で千葉県を中心に停電や断水など被害がありました。北海道も昨年 9 月の胆振東部地震では全道ブラックアウトを経験し、現代社会において電気がいかに大切かを実感していますので、停電への備えや食料の確保は必要だと改めて思いました。

10 月 7 日に開催された近畿ブロックの指導医講習会は、寝屋川市保健所の宮園所長が講師の予定だったのですが、用務の都合で出席出来なくなったため、急遽大阪府茨木保健所の谷掛所長に講師をしていただき開催することができました。

さて、今号は社会医学系専門医協会からのお知らせと、北海道ブロックで開催された指導医講習会の実施報告、若手公衆衛生医師や公衆衛生に興味を持っている医師・医学生向けに開催された PHSS2019 とその北海道版である PHSS HOKKAIDO 2019 の開催状況、そして社会医学系専門医の認定更新のチェックリストをお届けします。

## 1 社会医学系専門医協会の動向について

毎年 1 回開催されている研修プログラム統括責任者連絡会議が、今年は 12 月 8 日(日)に東京で、12 月 22 日(日)に大阪で、それぞれ開催されます。内容は基本的に同一内容で、協会から各プログラムへの連絡事項に関する講義や、各プログラムでの取り組みに関するグループワークなどを予定しています。各プログラムの統括責任者の方は東京か大阪のどちらかの会議にご参加いただくようお願いいたします。(寝屋川市保健所 宮園)

令和元年 8 月 18 日(日)日本医師会館にて、第 1 回専門医認定試験が行われました。受験生は 25 名で受験科目主分野の内訳は、行政・地域 7 名、産業・環境 15 名、医療 3 名でした。専攻医の早期修了者が 5 名、専攻医に登録されていない経過措置の受験生は 20 名でした。9 月 28 日(土)開催の理事会で 25 名全員の合格が承認されました。今後、社会医学系専門医の登録手続きを行っていただき(登録料 1 万 5 千円)、認定証が 2019 年 4 月～2024 年 3 月の 5 年間の認定期間として交付される予定です。

現在、専攻医は 300 名程度登録されており、専攻医を有するプログラムは、認定 74 プログラム中 38 プログラムです。第 2 回の専門医認定試験は 9 月 13 日(日)で、100 名程度受験される予定です。専門医認定試験の様子は協会のニュースレター 10 月号をお読みください。(葛飾区保健所 清古)

## 2 ブロック別指導医講習会の実施報告

北海道ブロック：令和元年 8 月 26 日開催

(講師・記録：山本長史 北海道岩見沢保健所長兼滝川保健所長)

令和元年 8 月 26 日(月)、かでの 2.7 において、全国保健所長会主催の北海道ブロック社会医学系専門医指導医講習会が開催されました。受講者は、所長会会員 14 名、非会員 6 名の計 20 名でした。

資料としては、一般社団法人社会医学系専門医協会の専門医・指導医認定委員会作成の「社会医学系専門医制度 説明資料（2019 年度版）」を用いて行いました。事務局の変更や指導医・専攻医の人数等は最新の数値を追加説明しました。

指導医の認定更新については、公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会作成のチェックリストと専門医・指導医の更新ルール（K 単位と G 単位）についての解説を配布し説明しました。

質疑では、「e -ラーニングについて」の質問がありましたので、コンテンツが大変充実していることや、スマホでも見られること、K 単位の必須受講項目である「医療倫理」などの 3 項目は最初にあることなどを説明しました。

今回の指導医研修会は、保健所連携推進会議の昼休みに昼食を食べながら開催しました。

連携推進会議では、厚生労働省健康局健康課の神ノ田課長から「地域保健の最近の動向と課題」、川崎市健康安全研究所の岡部所長と、国立感染症研究所感染症疫学センターの神谷主任研究官から「海外感染症への対応」についての講演があり、最新の情報を知ることが出来ました。

また夜の意見交換会では山中全国保健所長会会長にも参加していただきました。北海道の新鮮な魚介類を自分たちで網焼きして食べながらの開催でしたが、美味しい料理の助けもあり活発な意見交換をすることが出来ました。

### 3 公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナーPHSS2019 の実施報告

（東京：R 元年 8 月 24, 25 日開催）

（記録：西田敏秀：宮崎市保健所長：確保育成委員会委員）

公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー（PHSS）2019 は、令和元年 8 月 24 日（土）、8 月 25 日（日）の 2 日間、都市センターホテルで開催されました。

地域保健総合推進事業（全国保健所長会協力事業）「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」事業班において、2012 年から開催している当セミナーも、今年で 8 回目の開催となりました。公衆衛生分野に関心がある医師、医学生のほか、公衆衛生分野に入職後 5 年以内の医師を対象として開催され、例年 30～40 名程度の参加があります。

平成 29 年度までは、品川駅近くの貸会議室を会場として、定員 30 名で開催しておりました。昨年度より都市センターホテルに会場を移し、定員 40 名で開催しておりますが、昨年度は 46 名、今年度は 47 名の参加がありました。

参加者は 6 班に分かれて、各班のファシリテーターと情報交換をしながら、公衆衛生医師のキャリアパスや業務内容について学んでいただきました。

当セミナーの目的としては、①公衆衛生分野に関心がある医師、医学生に対して、保健所等で勤務する医師から公衆衛生活動の実際やキャリアパスを伝え、今後の人材確保を目指すこと、②保健所等に入職して間もない公衆衛生医師に対して、保健所で勤務する魅力が伝わるような講義、ケースメソッド、意見交換を通じて人材育成を目指すこと、があります。

セミナーでは、「公衆衛生医師のキャリアパスと社会医学系専門医制度」、「保健所医師として勤務する魅力」、「公衆衛生分野の人材育成」、「専攻医からのメッセージ」、「WHO 勤務の

経験」、「公衆衛生分野における女性医師の活躍」の講義の他、結核に関するケーススタディ、救急医療に関するディスカッション、Q&Aセッション、受動喫煙対策に関するグループワークが行われました。

講義やQ&Aセッションでは、現役公衆衛生医師の具体的なキャリアパスや、公衆衛生医師になったきっかけ、仕事のやりがいなどを紹介しましたが、受講生には好評のようでした。

また、初日終了後にはホテル内で意見交換会も開催され、特に女性医師・医学生の参加者が、運営スタッフの女性医師に積極的に質問するなど、活発な意見交換がなされていました。

受講後アンケートからも、全体的に満足度が高く、充実した研修となったとの意見が多く得られ、以前と比較して、公衆衛生分野に進みたいという参加者が増えてきている印象を受けました。また、すでに入職している参加者、運営スタッフも含め、現職公衆衛生医師のモチベーションの維持や高揚につながっていると感じています。

今回で8回目の開催となりましたが、このセミナーを通じて、参加者がより公衆衛生に興味を持っていただき、公衆衛生医師の人材確保・育成につながることを願っています。

最後に、今回運営にあたりご協力いただいた25名の先生方および日本公衆衛生協会事務局の方々に感謝申し上げます。

#### 4 公衆衛生北海道サマーセミナー（PHSS HOKKAIDO 2019）の実施報告

（札幌：R元年8月17日開催）

（記録：村松 司：北海道網走（兼）紋別保健所長）

公衆衛生分野に携わる医師の不足が深刻化していることは既に論を待たないところですが、北海道も例外ではありません。今回北海道において、公衆衛生医師確保・育成事業班が毎年開催し好評を得ている「PHSS（公衆衛生サマーセミナー）」を参考に、北海道・札幌市・北海道保健所長会・道内三医大の共催で、主に北海道ゆかりの医学生・若手医師を対象として、8月17日（土）に札幌医科大学を会場として「北海道版PHSS」を企画・開催したので報告します。

周知方法は医大や保健所に配布したチラシやホームページと知り合いの医学生や医師へのメールだけでしたので、どのくらい申し込みがあるか不安でしたが、最終的には9名の方から申し込みがあり、その内訳は、医学生4名、初期研修医1名、臨床医3名、その他1名でした。

セミナー当日は台風から変化した温帯低気圧の影響で、本来ファシリテーター担当を予定していたスタッフのうち数名が札幌まで来られなくなる事態となりましたが、参集したスタッフでなんとか乗り切りました。受講者についても、道外からの参加もあったので天候不順による欠席を心配していましたが、幸いなことに当日出席を予定していた9名全員が会場に参集することができました。

会は、山本長史実行委員長（北海道保健所長会会長）と、大西浩文副委員長（札幌医大公衆衛生学教授）の挨拶で始まり、オリエンテーション・アイスブレイクの後、「保健所長の一日」と題し、保健所に所長として勤務する公衆衛生医師の業務の実際についての説明を行いました。午後からは北海道庁保健福祉部人見嘉哲医療参事による、「北海道胆振東部

地震」を題材にした健康危機管理ケーススタディ、村松司網走・紋別保健所長による「道内で発生した麻しんアウトブレイク」を題材にしたグループワークを行いました。いずれも、参加者による活発な議論が行われ、現場の保健所長が健康危機事例に対し、どのような情報を集め、どのように考え、決断したかが伝わり、大変に身のあるグループワークになったと考えています。最後に参加者全員による振り返りを行い、北海道庁保健福祉部竹内徳男技監の挨拶で会を締めました。

限られた時間であり、グループワークでは話し足りなかったこともありましたが、会の終了後に近くの飲食店で意見交換会を開催し、事例検討の更に深い質問や、現役公衆衛生医師のプライベートなども交えた、より親密な情報交換が行われ、大いに盛り上がりました。

今回北海道版 PHSS を開催して感じたことは、公衆衛生に興味を持っている医師や医学生が少なからずいるということと、参加してくれた人はみな熱い思いを持っているということです。開催に当たっては、大変なことがありましたが、スタッフ全員参加者から元気をもたらすことが出来、来年度も開催しようと話し合っているところです。皆さんの地域での参考にしていただければ幸いです。

## 5 社会医学系専門医の認定更新 チェックリスト

| <input checked="" type="checkbox"/> | 項目  | 条件   |
|-------------------------------------|---|--|
| <input type="checkbox"/>            | (前提)協会の年間登録料  | 5年間未納がない   |
| <input type="checkbox"/>            | (前提)構成学会の会員   | 5年間継続  |
| <input type="checkbox"/>            | (1)認定更新申請書  | 所定の様式を用いる  |
| <input type="checkbox"/>            | (2)勤務実績   | 社会医学系分野で5年間継続  |
| <input type="checkbox"/>            | (3)活動実績   | 6項目のうち2項目以上を5年間継続<br><input type="checkbox"/> 教育・研究 <input type="checkbox"/> 産業保健 <input type="checkbox"/> 行政関連<br><input type="checkbox"/> 医療管理関連 <input type="checkbox"/> 災害時・健康危機管理<br><input type="checkbox"/> 専門医制度への参画   |
| <input type="checkbox"/>            | (4)講習の受講(K単位)<br><input type="checkbox"/> 必須項目全て<br><input type="checkbox"/> 合計10単位以上<br><br>※1コマ(1~2時間)→1単位  | ○必修受講項目( 単位)<br><input type="checkbox"/> 医療倫理<br><input type="checkbox"/> 感染対策<br><input type="checkbox"/> 医療安全<br>※臨床系専門医制度の「共通講習」も可<br>※eラーニングも可<br><input type="checkbox"/> 指導医講習会(2回以上)<br>○選択受講科目( 単位)<br>( ) ( ) ( ) ( ) |
| <input type="checkbox"/>            | (5)学会・団体活動(G単位)<br><input type="checkbox"/> 必須の活動全て<br><input type="checkbox"/> 合計10単位以上<br><br>※参加の証明書添付<br>(名札兼領収書のコピーなど)<br>※役員等については名簿・委<br>嘱状等の添付が望ましい | ○必須の活動( 単位)<br><input type="checkbox"/> 構成学会の年次総会等に3回以上出席 ※1単位/回<br><input type="checkbox"/> 鍵となる学会に2回以上 ※2単位/回<br>○選択の活動( 単位) ※別表参照<br>( ) ( ) ( ) ( )  |



全てが → 更新資格充足

※指導医をもっていない経過措置専門医は、上記の他に基本プログラム受講も必須

発行責任者：山本長史（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）